

1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

平常時の活動例



非常時の活動例



自主防災組織とは、地域の人たちが「自分たちのまちは、自分たちで守る」という心構えで、自発的に防災活動を行う組織のことです。

大規模な災害が発生したときは、同時多発的に被害が発生するため、防災機関だけでは、じゅうぶんに対応できないことがあります。そのようなときに力を発揮するのが、

地域の協力体制です。自主防災組織を結成し、事前に災害発生時の役割分担を整えるなど、一人でも多くの命を守る取り組みが必要です。

一人でも多くの人が、防災活動に参加し、みんなで支え合って防災の仕組みを作りましょう。左の図では、自主防災組織の活動の一部を紹介しています。

自主防災組織（防災会）とは、どのような組織？

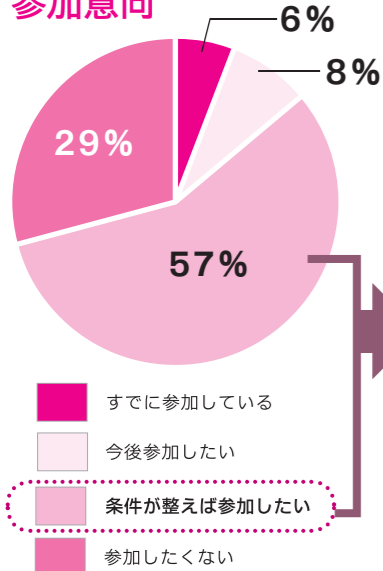
地域の防災活動へ積極的に参加しよう！

下の図表は、内閣府が取りまとめた「地域防災活動への参加意向」の結果です。

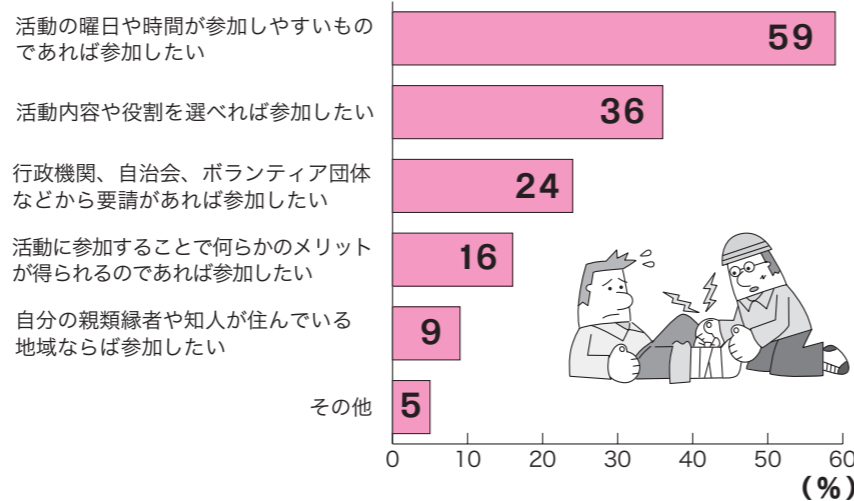
防災対策というと「大変そう」と身構えられがちですが、大規模な災害が発生したときに、力を発揮するのは

地域の自発的な活動です。一人の力は小さくても、みんなで協力することで大きな力を発揮することができます。日ごろから地域の防災活動に参加し、災害に強いまちづくりをしましょう。

地域の防災活動への参加意向



防災活動に参加できる条件（回答は複数回答）



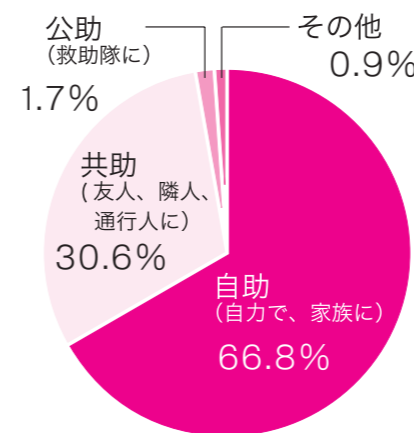
出所：内閣府「平成21年版 防災白書」

自主防災組織 「自分たちのまちは、自分たちで守る」



▲大堀町防災会の防災訓練（平成21年9月撮影）

阪神・淡路大震災で生き埋めになった人たちを、だれが助けたのか？



阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）では、住民の自発的な救出・救助活動が、大きな力を発揮しました。

出所：(財)日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」データ

災害は、いつ、どこで発生するかわかりません。災害の規模によっては、公共機関による救出・救護が困難な場合があります。このようなときに、家族や、助けが必要となる人に、最初に救助の手を差し伸べることができるのは、あなた、そして、地域の皆さんです。

彦根市では、地域住民が災害からお互いの身を守るために活動を行う「自主防災組織」の結成を推進しています。

左の表にあるように、阪神・淡路大震災では、多く

の地域住民がお互いに助け合い、さまざまな困難を乗り越えました。そして、復興にも大きな力を発揮しました。

防災体制作りは、みんなが協力し合わなければ、地域で根付いていくことはありません。

自主防災組織の結成についての相談、自主防災組織の活動などを紹介していただける人は、ご連絡ください。

問い合わせ先 雨総務課
危機管理室 30161
50番、FAX 22-113
98番